

## 令和元年度決算に 対する討論

**飯塚 正議員(日本共産党)**

**反対** 令和元年度決算に対し、反対の立場から討論を行う。

一般会計では、自衛官募集事務を行っている点、マイナンバーカードの推進を図っている点、敬老会開催事業、ミニデイホーム事業、井頭温泉招待事業の対象となる年齢を70歳から75歳へ引き上げたままである点、こども医療費無償化を高校3年生まで拡充することに前向きでない点、指定ごみ袋の有料化を続けている点、企業誘致の促進を図るための補助を行っている点、農村部における生活道路の整備について区からの要望にこたえていない点、奨学資金貸付事業において給付型制度になっていない点、小中学校給食費の無料化が図られていない点に反対する。

特別会計では、国民健康保険特別会計で高い保険税となっている点、介護保険特別会計でも高い保険料となっている点に反対する。

公共下水道事業特別会計、農業集落排水事業特別会計、水道事業会計においては、使用料に消費税を上乗せしている点に反対する。

**野沢 達議員(もおか令和会)**

**賛成** 令和元年度決算の認定について、もおか令和会を代表し、賛成の立場から討論を行う。

「こどもの元気な成長プロジェクト」では、「真岡市総合学力調査」を実施し、きめ細やかな学習指導体制の構築に取り組んでいる。英語・漢字検定料の支援により学習意欲の向上に努めている。タブレット端末の増設を図り、電子黒板と組み合わせた効果的な授業を実践するなど、情報教育の推進が図られていることに対し高く評価する。

「若い世代・子育て応援プロジェクト」については、UIJターンの雇用の促進や地元就労の拡大に取り組むとともに、男女共同参画の推進に努め、女性が社会に参加しやすい環境づくりに取り組んでいる。また、なかなか子育て支援事業として、真岡駅子ども広場を整備し、子育て世代へのサービス提供や交流の場を推進するなど、子育て支援の充実を推進していることに対し高く評価する。

「いつまでも安心な暮らしの実現プロジェクト」については、芳賀赤十字病院の運営支援を行い、同病院敷地内の「真岡市休日夜間急患診療所」において、急病でも安心して受

診できるような市民の立場に立った運営が図られている。高齢者免許返納支援事業として交通手段の支援の充実に取り組んでいることに対し、高く評価する。

「とちぎをリードする産業プロジェクト」については、戦略的な園芸農業の推進や、魅力ある産業の創出を図り、新規導入や生産規模を拡大する農家に対して施設整備の支援を行うとともに、ICT機器の導入支援に取り組んでいる。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により延期を余儀なくされた「全国いちごサミット in もおか」については、オール栃木体制で準備を進め、参加呼びかけやPR活動を市長自ら実施してきたことに対し、高く評価する。

最後に、「まちの活力再生・魅力創出プロジェクト」については、土地利用に関する現地調査や地域組織との検討会議が開催されるなど、地域と一体となった推進が図られている。複合交流拠点施設の整備に向け、最適な事業手法の検討や基本計画の策定を実施するなど、新庁舎周辺整備事業の推進が図られている。総合運動公園南ブロックの実施設計や雨水排水路、調整池の整備など、野球場や運動広場の整備のための準備が計画的に推進されている。

令和元年度の決算については、各施策とも、適正かつ効率的に執行されているが、今後も少子高齢化、高度情報化などの社会情勢の急激な変化や、複雑・多様化する市民の行政需要に、的確に対処していかなければならない。また、新型コロナウイルス感染症においては、迅速な対応が求められる。

石坂市長には、市政運営の最高責任者として、最善の意思決定を行い、本市のなお一層の発展のために尽力されるよう、お願いするとともに、新庁舎においても市民の目線に立った取組と、「選ばれる都市もおか」の実現を強く願う。

市長をはじめ、全職員の各分野での努力に対し感謝するとともに、議員各位の理解と賛同を賜るようお願いし、賛成討論とする。

**佐々木重信議員(自由民主市民の会)**

**反対**

議案第97号について、一般会計決算のうち、議会費議会事務費及び総務費一般管理費秘書事務費としての支出で、公職選挙法第143条に抵触する恐れのある用詞印刷製本費が計上されていることから、令和元年度真岡市一般会計決算の認定については反対する。

議案第97号について、一般会計決算のうち、議会費議会事務費及び総務費一般管理費秘書事務費としての支出で、公職選挙法第143条に抵触する恐れのある用詞印刷製本費が計上されていることから、令和元年度真岡市一般会計決算の認定については反対する。

## 中村 和彦議員(もおか新時代)

### 賛成

議案第97号及び議案第98号の令和元年度決算の認定について、もおか新時代を代表し、賛成の立場から討論を行う。

まず、歳入では、大半の部分で収入未済額、不能欠損額が前年度と比べ減少し、収納率が改善している。

歳出においては、前年度に不用額の多さなどが指摘された節で改善が図られた跡も見られ、高く評価されるべきものと考ええる。

議員各位には、決算認定に賛同を賜るよう強くお願いする。

今後、新型コロナウイルス感染症の影響による景気の落ち込み、ひいては税収の減少も懸念される中、多様化する行政ニーズに対応するため、執行部には、なお一層の精励を願う。

次に、各常任委員会や決算審査特別委員会で感じた課題を指摘する。一括りに言うと、真岡市にとって『未来に向けての投資』にあたる部分について、より活用を図っていただきたいということである。

まず、『5款労働費』とちぎWORK WORK移住・就職促進事業費』、『6款農林水産業費』『親元就農支援事業費補助金』のように、若い世代が真岡市に住み、働くための事業費が十分に使われていない。より活用しやすい環境

づくりを検討されたい。

また、不用額が多かった訳ではないが、『2款総務費』『移住促進事業費』、『6款商工費』『まちなか新設出店にぎわい創出支援事業費』や『もおかフィルムコミッション運営補助金』、『8款土木費』『空き家バンク事業費』などは、さらに積極的な活用が図られるべき分野である。これらの事業については、PRのあり方にも検討が必要であると考える。特に、先ほど触れた『空き家バンク事業費』で固定資産税の納税通知書に印刷物を同封することにより実績が向上したという事実1つを見て、行政の施策は市民に知られてこそ価値が出るということを強く感じた。

最後に、『2款総務費』『人材育成費』について、市職員の各種研修費は前年度に比べて活用が図られているが、地方分権が進展する中、欠かせないのは人材の育成であり、今後更なる改善と充実化を要望したい。

今定例会は、この議場で行われる最後の定例議会である。新議場に移ってから、これまでと変わらず執行部と適切な緊張感を持ち、市政の課題と真摯に向き合っていきたい。新しい時代の議会制度づくりについても、会派所属議員一同、力を尽くすことを誓い、賛成討論を終了する。

## 決算審査特別委員会の審査から

### 総務費

#### ▼2款1項1目 一般管理費

**問** 活力ある地域づくり事業交付金の特別認定事業の事業内容について伺う。

**答** 令和元年度に特別認定事業を実施した区は、大田山、高勢町、下大沼、鷲巢の4区であった。

大田山区は、地域住民が除草活動や季節の花植えなどを積極的に行い、生活環境を作り上げる事業を実施した。

高勢町区は、地元の食材をベースに地区独自の創作料理を考案し、グルメの創設を目的とする事業を実施した。

下大沼区は、有休農地を対象に地域土壤にあった、さつまいものふれあい農園を開設し、収穫祭を行い世代間交流としての場所づくりを実施した。

鷲巢区は、そば粉を原料とした菓子等の講習会を開催し、農業の6次産業化の一端を体験しながら地域の活性化を図る事業を実施した。

### 労働費

#### ▼5款1項2目 雇用支援対策費

**問** 合同就職面接会への参加企業数と、参加人数について伺う。

**答** 合同就職面接会の参加企業数については、平成29年度が29事業所、平成30年度が29事業所、令和元年度が32事業所となっている。参加求職者については、平成29年度が58人、平成30年度が46人、令和元年度が39人と減少傾向になっている。要因としては、昨年12月までの有効求人倍率が、1・46倍と高い水準を示しており、雇用情勢が改善傾向であったためと考えている。

### 教育費

#### ▼10款2項2目 教育振興費

**問** 学校図書館専任司書を配置後、子ども達の読書量はどれほど伸びているのか。

**答** 全小学校の図書館における貸出冊数の推移は、平成29年度が96607冊、平成30年度が前年度より1135冊増の97742冊、令和元年度が前年度より6028冊増の103770冊である。